

第1回 えきしろ空間活性協議会

■意見要旨

○議題(1)～(4)に対する質疑・意見

No.	意見等要旨	意見等に対する説明
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンで示す 2050 年は、現在の人口を 10 割とした場合に 7 割程度の社会になると言われる。リニア新幹線開通による交通変化が予想される中、正確な将来像を描くことは難しい。20 年先を目標年次とするビジョンは、計画期間が長すぎると考える。 ・えきまえエリアを 3 つの界限に整理する中で「内」や「外」と示されているが、その定義が不明確である。 ・優先順位をつけ対応すべきである。すでに、民間事業者が撤退し、新たな投資が進まない状況への対応が必要である。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間投資促進のため、早期に実施できることは積極的に進める方針である。今後の協議会で、段階的な取組方針を提示する。 ・定義を整理する。 ・民間事業者に対してヒアリングを行っている途中であるが、協議会においても、どのような対応があれば新たな投資が生まれるか、意見を伺いたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・文化継承や災害時の対応などの観点からは、松本城～松本駅～あがたの森のトライアングルでビジョンを描くことが望ましいと考える。 ・店舗等へ投資する人の考えでまちの姿が大きく変わる。 ・歴史ある建物が守られ、松本らしさが反映される店舗の入居を促す仕組み、既存店舗を守る仕組みを整える必要がある。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えきまえエリアビジョンは、昨年度 3 月の中心市街地再設計検討会議提言を踏まえ、行政計画として整理するため策定するものであり、松本駅周辺から松本城までの範囲を対象として協議していただきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の投資はホテルやマンションが中心だが、既存ホテル等の改築は資金面で難しいケースが多い。20 年後の将来像の実現は、改良を重ね段階的に魅力を積み上げることが必要である。 ・観光の観点からは昔の姿を想起できるよう旧町名を復活してほしい。 ・観光客の松本への来訪ルートを踏まえ、まちなかの混雑を避け、歩いて楽しめる環境を整えることが必要である。 ・えきしろ空間は、車の流れを一方通行化することも良い。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えきまえエリアビジョンでは、民間投資の促進と一方通行を含む交通再編等の具体案を示す。

No.	意見等要旨	意見等に対する説明
	<p>例えば、大名町通りを松本城に向かう一方通行にしても良いのではないかと。</p>	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・民間投資の促進は、補助金の導入、規制緩和、公共空間の利活用ルールの見直しなどの環境整備が必要である。 ・タクシー運転手の話では、観光客は松本駅から松本城まで乗車するケースが多く、歩く人が多いまちにはなっていない。 ・小さな子どもが松本を知るきっかけを作る必要がある。例えば子どもたちの活動の披露イベントを中心市街地で開催するなどして、子どもが活躍できる場を作ることで、子育てしやすいまちづくりに繋がる。 ・小学生を対象として、地元企業を知る機会をつくることも考えられる。 	—
5	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの事業者が賑わい創出に取り組んでいる。一つの取組みとして、昨年花時計公園へのテントを設置した。その知見を踏まえ、出店者が負担を感じない仕組みづくりを市へ提言した。 ・協議会は市の複数部署が関与しているが、旗振り役を明確化し、取組みの推進スピードを上げ、公民学の連携を効果的に進めるプロセスが必要である。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略局が中心となり、取組みを進める。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに歴史文化を継承するため、パブリックスペースは文化を感じられる場づくりが望まれる。博物館での学びや祭りへの参加はきっかけとなる。歴史文化の継承は民間任せではなく、公共も取り組む必要がある。 	—
7	<ul style="list-style-type: none"> ・20年後の社会を正確に予測することは難しいが、リニア開通などを機に、日本全体から見た松本の位置づけは間違いなく変わる。現在の松本の課題に向きあうだけでなく、大きな社会情勢の変化や広域的な視点を持って、ビジョンを描いたほうがよい。 ・検討にあたっては、人口予測や乗降客数の推移等の定量データを整理・分析し、ビジョン策定後は、データを更新・分析することによって、取組みが進捗しているかマネジメ 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニア開通などの社会情勢の変化を想定して、検討する。

No.	意見等要旨	意見等に対する説明
	<p>ントできる仕組みが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部からの投資を呼び込むためには、市民向けのビジョンに留まらず、対外的にえきまエリアの将来像を提示する視点も重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民と共有する視点に加え、対外的な視点を持って検討する。
8	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地再設計検討会議でも、まちに住む人が少ない課題が議論されており、まちなか居住のあり方は重要な視点と考える。 市場経済の自由競争に任せていくと、期待する将来像の実現は難しい。どこまで行政が踏み込むのかという議論は避けては通れない。 20年先を見据えたビジョンにするとしても、1年ごとの積み重ねが重要であり、ビジョン実現に向けたプロセス設計も検討したほうがよい。 議論を深めるため、縮尺の異なる複数の地図を準備していただきたい。えきしろ空間に加えて、松本市全体、長野県全体や東京を含む広域が見渡せる視点から整理すること。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> 提言でいただいた3つの指針・5つのコンセプトをもとに、より具体的な設計を行っていく。

以上